

信州大学大学史資料センターのあゆみ

信州大学HOME 信州大学附属図書館

信州大学 | 大学史資料センター
SHINSHU UNIVERSITY

新着情報 ごあいさつ 資料提供のお願い センターについて



信州大学 大学史資料センター

信州大学に関する貴重な資料を収集・整理・保存するとともに、
歴史資料として公開・展示するため、企画展などを開催しています。

2019.10.24 イベント情報 [企画展「信州大学誕生」関連イベント 知の森昼どきセミナー
11/13\(水\)のご案内](#)

2019.09.02 お知らせ [第2回 信州大学大学史資料センター企画展「信州大学誕生」
のご案内](#)

カテゴリ選択 ▾

目次

1. 資料センターの概要

2. 2017年度～2019年度の活動-1

①『信州大学歴史探訪マップ 1873—2019』

②『映像で見る信州「知の森」のあゆみ』

③スライドショー、パネル展示

3. 2017年度～2019年度の活動-2

①②企画展示

4. 2017年度～2019年度の活動-3

資料の収集・整理・保存、調査研究

5. 今後の展望

100年史を目指して

1. 大学史資料センターの概要

- 信州大学 大学史資料センターの概要
 - ✓ 信州大学創立70周年を契機として、従来から喫緊の課題だった本学の歴史に関する史資料の体系的な収集・整理・保存、調査研究、及び公開・展示を担う組織の設置を提案。
 - ✓ 2017年4月、附属図書館の下に設置された（第410回役員会承認：2017年2月）。

2. 2017年度～2019年度の活動-1

● 70周年記念事業の実績と評価

- ✓ 立ち上げから2年という短い期間で
 - 『信州大学歴史探訪マップ 1873-2019』
 - 『映像で見る信州「知の森」のあゆみ』
(ムービー、スライドショー、パネル展示)等、本学の歴史に関する高品質なコンテンツを制作したほか、
 - 池上彰氏トークセッション「信州の高等教育黎明期」
 - 『信大NOW』周年記念事業特集号の制作協力を行った。

- ✓ 関係部署との緊密な連携によって、記念事業を成功に導く原動力となった。
- ✓ 周年記念事業に対する貢献によって、創立から70年という節目の年のゴールとして十二分にその役割を果たした。

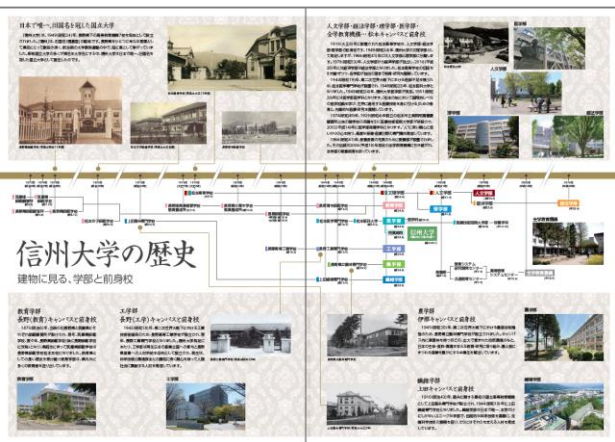
70周年記念事業の実績例①



● 『信州大学歴史探訪マップ 1873-2019』

信州の地に期待を担って誕生した信州大学... その建物やキャンパスの景観は、前身校の時代から地域とともに歩む中で、地域のシンボルともなりました。

これらは時代の象徴であり、地域の大切な歴史資産でもあります。当時の情景に想いを馳せながら、キャンパスの歴史を振り返ってみましょう。



70周年記念事業の実績例②

● 『映像で見る信州「知の森」のあゆみ』

先人の弛まぬ努力で築き上げて来た「人類の知」－信州大学においては、「知の継承（教育）」と「新しい知の創造（研究）」によって、「知の森」を育んできました。

「知の森」とは、信州の地にしっかりと根を張った国立大学の使命として、総合大学ならではの学問分野を超えた協働・融合を通して、人と地球の持続可能な社会実現のために知の体系を確立するべく、地域とともにあゆんできた信州大学の在り様を示しています。

信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業では、そのあゆみを各種映像（ムービー、スライドショー、パネル展示）で振り返ります。

contents 1 ムービー

←制作協力

信州大学のあゆみ

～信州の高等教育:黎明期から大学誕生まで～

※各種コンテンツは、Webサイトで公開している。

第1部 旧制高等学校と大学設置運動



第2部 旧制松本高等学校 前編・後編



第3部 信州大学誕生



70周年記念事業の実績例③

『映像で見る信州 「知の森」のあゆみ』



ムービーを視聴する来場者



展示を観覧する来場者

contents 2 スライドショー

←制作

信州大学歴史探訪(キャンパスに刻まれた記憶) 松高人名録(その一) 思誠寮生の青春日記



信州大学歴史探訪(キャンパスに刻まれた記憶)

信州の地に期待を担って誕生した信州大学—その建物やキャンパスの景観は、前身校の時代から地域とともに歩み中で、地域のシンボルともなりました。このスライドは、大学創立70周年を迎えるに当たり、各キャンパスを丹念に取材して作成した「信州大学歴史探訪マップ」の詳細バージョンです。各キャンパスの過去と現在、そして未来につながる姿をご覧ください。



松高人名録(その一)

松本高等学校の開校100年を記念して、旧制高等学校記念館、信州大学日本文学分野及び大学史資料センターが連携し、企画展「松高人名録(その一)」を行いました。戦前・戦中・戦後を通して、さまざまな分野で活躍した松高生20名のプロフィールを取り上げ、現代日本の発展において、旧制高等学校がいかに重要な役割を果たしてきたかを振り返ります。



思誠寮生の青春日記

「旧制高等学校といえば学生寮」というほど両者の結びつきは強く、全国から集まったエリートたちは、学校においては「教養主義」、寮においては「自治」の洗礼を受けながら、人間としての成長を遂げていきました。

「自治こそ寮の誇りなり」「記念祭にかける情熱」「戦争と思誠寮生」「信州での寮生活」の4章仕立てで、松高生の青春を振り返ります。

contents 3 パネル展示

←制作

信州大学今昔(いまむかし)

～信州大学の沿革と各学部の系譜～

信州大学は、戦前に設立された7つの前身校の伝統を引き継ぎ、昭和24年に発足しました。

信州大学の沿革と、各学部の前身校～現在までの系譜をパネル展示します。信州大学の「昔」から「今」に至るあゆみを、ご覧ください。



3. 2017年度～2019年度の活動-2

● 企画展示① (70周年記念事業関連イベント)

✓ 「信州大学今昔 (いまむかし)」 (2018年2月～)

- 本学の創設に関する文書、文部省学校教育局長通知「新制国立大学設置について」(1949年5月31日付)を展示。
- 内部部局において、保存年限を過ぎてはいたが、歴史的な文書として特別に保管されていたものを、センターが保存した。本学の歴史を物語る最も重要な資料が発掘され、保存・活用の途を開くことができた。
- 本学を構成する、特色ある前身校から現在の系譜を学部ごとに概観し、関係部署の協力を得て、各学部が保有する逸品を一堂に集めて、展示した。

～ 信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業イベント～

第四回 信州大学中央図書館センター企画展

信州大学今昔

信州大学は、戦前に設立された前身校の伝統を引き継ぎ、1949年6月1日に開学しました。本展では、創立当初の姿がわかる資料や写真を展示し、現在までの大学の移り変わりなども紹介します。

開学式場の写真

■ 前期 ■ 2018年2月22日(木)～3月19日(月)
[2/25(日)、3/12(月)は休館]
月～金 8:45～17:00, 土日祝 10:00～17:00

■ 後期 ■ 2018年4月26日(木)～5月14日(月)
[休館なし]
月～金 8:45～22:00, 土日祝 10:00～19:00

■ 場所 ■ 信州大学中央図書館 1階展示コーナー
(松本キャンパス 松本市旭3-1-1)

主催：信州大学附属図書館 信州大学中央図書館

3. 2017年度～2019年度の活動-2

● 企画展示② (70周年記念事業関連イベント)

✓ 「信州大学誕生：残された文書が語る誕生の舞台裏」
(2019年10月～開催中)

- 明治期に始まった信州における高等教育機関設置を目指した動き、戦後の各前身校の独自の動きが、総合大学としての信州大学誕生へと収斂していく様を、「大学設置認可申請書」等、内部部局や各学部に残された文書から描き出している。

- これらの展示は、オープンキャンパスや卒業式・入学式の期間に合わせ、繰り返し開催している。自校史教育の機会を提供できることとなった。

The poster features a collage of historical photographs and documents. It includes images of university buildings, gates, and various official documents and letters. The text on the poster provides details about the exhibition, including dates, times, and locations.

第2回 信州大学大学史資料センター企画展
70th Anniversary
信州大学誕生
残された文書が語る誕生の舞台裏

開催トークイベント
○11月13日(水) 12:20～12:50
短の真展どきセミナー
「松本キャンパスのほむり」
—信州大卒業生、その2—
講師：細島 正樹 先生
○11月27日(水) 12:20～12:50
ギャラリートーク
開催：大学史資料センター
○12月11日(水) 12:20～12:50
短の真展どきセミナー
「大学史資料センターのあゆみ」
講師：齋藤 匠一先生
*短どきセミナーは、
金キャンパス1階催します

期 日 | 2019年10月10日◎ - 12月18日◎ 期 日 | 2020年3月18日◎ - 5月11日◎
信州大学中央図書館 1階展示コーナー
松本キャンパス 松本南館3-1 月・金/8:45～22:00 土曜祝日/10:00～19:00 ※3月期は17:00まで
トークイベントを開催予定です。詳細については大学史資料センターのWEBページにてお知らせします。
主催：信州大学大学史資料センター-附属図書館
お問い合わせ先 | 信州大学大学史資料センター(松本キャンパス内)
TEL : 0263-37-3531 / FAX : 0263-37-3532 / E-mail : archive@shinshu-u.ac.jp (平日9:00～16:00)

4. 2017年度～2019年度の活動-3

● 資料の収集・整理・保存、調査研究

- ✓ 2019年10月末現在の実績
 - 寄贈者数：136名（内訳：卒業生104、教職員30、その他2）
 - 寄贈点数：3,183点（2019年10月末現在）
- ✓ 他に、竹内松次郎氏（信州大学創立事務責任者、初代医学部長）、三村一氏（第4代学長）の関係資料を多数受贈（点数未加算）。
- ✓ 2年半の成果としては十分。しかし、卒業生の累積数約100,000名と比較すると、端緒についたばかり。



↑ 寄贈品の事例①

教育学部創立90周年記念手ぬぐい
1967年 教育学部卒業生より寄贈

※寄贈品の一部は、Webサイトで公開



← 寄贈品の事例②
計算尺

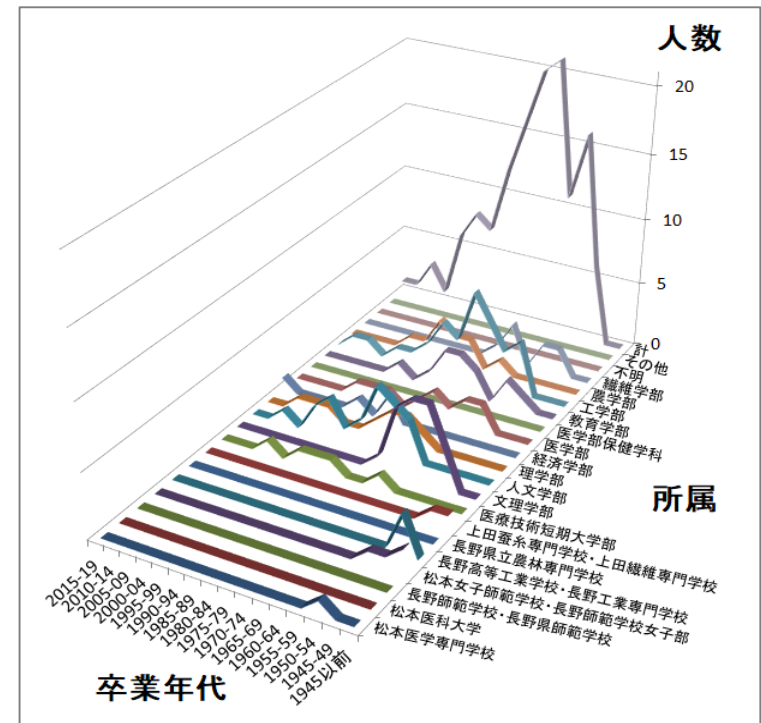
上；1945年
長野工業専門学校卒業生
中；1963年
文理学部卒業生
下；1970年
工学部卒業生より寄贈

4. 2017年度～2019年度の活動-3

● 資料収集・寄贈依頼に反応があった卒業生の特性

- ✓ 卒業年代は「1965-1969」21名「1970-1974」20名をピークとして、前後に集中。
(母数：148名)

- ライフイベント（身辺整理）との兼ね合いで、概ね卒業後40～60年後のタイミングに資料寄贈依頼があれば応じる傾向。
- 開学から20年分は既にタイミングを逸した。卒業生を親に持つ世代からのコンタクトに賭ける。
- 寄贈の受付を中止した場合、その期間中の資料が集まらないことが推測される。



- ✓ 周年事業の直前になって資料収集活動を行っても網羅的な収集はできない。継続的な活動が重要。

5. 今後の展開

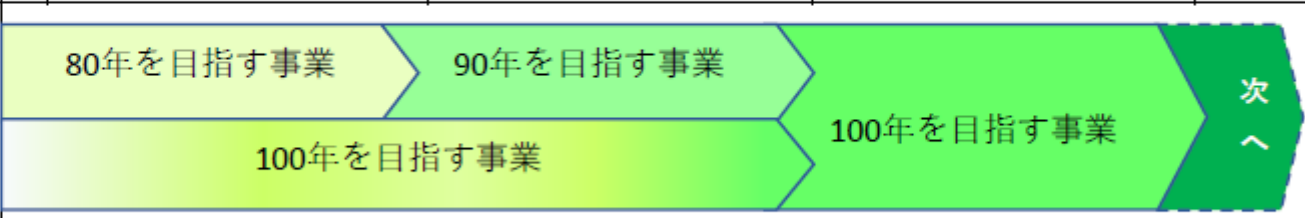
- 大学史資料センターの継続・発展に向けて
 - ✓ 70周年記念事業における成果により、記念式典に参加した学内外の関係者（卒業生、学生、教職員）のみならず、本学を取り巻く県内外の地域・社会において、本学の価値を高める一助となった。しかし、この成果は、あくまでも本学の発足から70年が経過した時点での中間的なゴールであり、最終ゴールではない。
 - ✓ 本学の理念には「信州大学は、山々に囲まれた自然環境及び信州の歴史・文化・伝統を大切に、総合大学として世界に通じる教育・研究を行い、自ら創造できる人材の育成、独創的研究の学際的推進、地域・社会の発展に貢献する」という目標が述べられている。この理念に基づき、本学が更なる発展を遂げる歴史を継続的に記録し、世の中に発信し、未来へと繋げて行くことが、センターの果たすべき役割である。

5. 今後の展開

- 大学史資料センターの中・長期計画（案）
 - ✓ 従来からの基礎的な事業である「資料の収集・整理・保存、調査研究」「資料の公開・展示（デジタル・アーカイブの構築含む）」に加え、新たなミッションとして「信州大学100年史の編纂」を行うことを提案する。
 - ✓ 学内への貢献として「自校史教育」の更なる充実、「学芸員養成課程への協力」を行うとともに、「地域・自治体との連携」を強化し、地域と共にあゆむ本学の歴史を、各キャンパスが展開する地域史の一部として位置付ける。

5. 今後の展開

- 「100年史」 編纂に向けた10年スパンの計画
 - ✓ 中期目標・中期計画のスパンや、各学部（前身校を含む）の周年を念頭に置き、次の節目となる2029年度の創立80周年、2039年度の創立90周年を目指した事業を行いつつ、2049年の100周年を目指した10年単位の中・長期的な事業計画を立てる必要がある。

西暦（下2桁）	19	20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	30 31 32 33 34 35 36 37 38 39	40 41 42 43 44 45 46 47 48 49	50 51	
周年の節目	70	80周年	90周年	100周年		
事業の流れ						
中期目標・中期計画	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期

※より詳細な事業計画（第5期中期目標期間中まで）は、『報告書』【資料9】p.65のとおり

5. 今後の展開

● 「100年史」の目的と目指すべき姿

- ✓ 本学の創立100年に至る歴史・伝統を記録し、教育・研究の成果を内外に積極的に公開し、本学の存在意義を世の中に発信することで、未来へ繋げることを目的とする。
- ✓ 「100年史」の構成は、(1) 全体史、(2) 部局史、(3) 資料編の3本立てを想定し、30年後の最新の技術・情報行動・文化に照らして、最もふさわしい形態で制作する。

● 「100年史」編纂にかかる業務（日常～中期～長期）

- ✓ 日常的な資料収集業務がすべての基礎となる。その土台の上に「100年史」の編纂に係る以下の業務を積み上げていく。
 - 70周年記念事業に際して収集した資料、及び、今後新たに受贈・収集する資料の整理・保存、調査研究、及び資料の展示・公開（日常）
 - 年史のシナリオ案の作成（構成・章立て等）（日常～長期）
 - 年表の作成（大学全体、卒業生・教職員の動向を記録）（日常～長期）
 - 80年、90年といった節目の年のとりまとめ（中～長期）
 - 100年史の歴史叙述、及び資料のとりまとめ（長期）

5. 今後の展開

● センターの中・長期計画遂行に向けた課題

✓ スペースの確保

- 人文学部及び経法学部から部屋を借りて運用。
- 寄贈資料の保管スペースは既に6割を超えており、将来的に博物館実習を実施する可能性も含めて、スペースの確保を検討する必要がある。

✓ 組織の在り方

- 引き続き、附属図書館の下に位置付けるかが論点となった。全学に関わる業務を行う部署は「特定部局の下ではなく大学直轄であるべき」という意見、「センターが図書館の下に設置されることによって、学部図書館の所掌業務が増えるのではないか」との懸念。
- 他の国立大学の状況を調査し、検討の参考とした。

※「国立大学における大学史に関わる組織の実態調査」の詳細は『報告書』
【資料10】

66を参照のこと。